

2017年(平成29年)

1月20日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

1/5~1/11のNYMEX・WTIは、1月からの主要産油国の協調減産実施に対する期待と懐疑で一進一退が続く中、50.82~53.99ドルの範囲で前週よりやや軟調に推移した。

1月12日は、サウジのファリハ・エネルギー相が同国が2年振りの低水準への減産を実施したとの発言や、イラク・クウェート・ロシア等の減産実施の報道等で、早期の需給均衡への期待感から、続伸した。さらに、中国の本年の原油輸入が前年比3.5%増加するとの見通しの報道、ドル安・ユーロ高の進行による原油先物の割安感も上昇要因となった。2月限の終値は前日比0.76ドル高の53.01ドルだった。

週末13日は、ベーカーヒューズ社発表の米国内の石油掘削リグ稼働数が522基(前週比7基減)と11週振りに減少したものの、中国の石油需要減退懸念が広がり、3営業日振りに反落した。2月限の終値は前日比0.64ドル安の52.37ドルだった。

連休明け17日は、16日のサウジのファリハ・エネルギー相の減産順守方針の確認、早期の需給均衡達成見通しの発言を受けて、過剰供給解消期待から買い進まれたものの、一部でロシアの2017年下期以降の増産見通しが報じられたことが上値を抑える形で、小反発に止まった。2月限の終値は前日比0.11ドル高の52.48ドルだった。

18日は、米エネルギー情報局(EIA)が2月の米国内原油生産が昨年10月以来初めて前年比でプラスになると報道したことで、急反落した。2月限は前日比1.40ドル安の51.08ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(2月渡し)は、前週51.70~54.60ドルと堅調に推移した。12日は

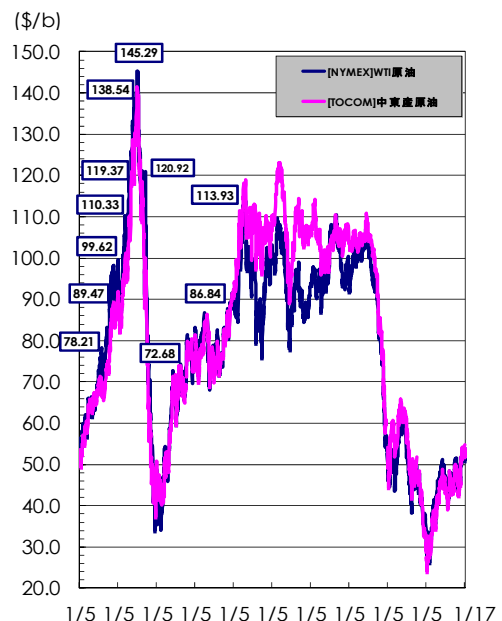
53.20ドル、13日は54.20ドル、16日は53.70ドル、17日は53.70ドル、18日は53.80ドルで推移した。

為替は、前週115.72~116.56円とやや円高に振れた。12日は115.25円、13日は115.03円、16日は114.33円、17日は114.16円、18日は112.83円で推移した。

主要元売会社の1月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きと1.0円の値下げに分かれた。原油価格は値下がりし、為替レートは円高に転じたため、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、1月16日時点の小売価格は、ガソリンが0.4円値上がりの130.9円、軽油が0.4円値上がりの110.2円、灯油は0.6円値上がりの77.7円だった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油は13週連続の値上がり。この週(1月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は据え置きと1.0円の値上げに分かれた。

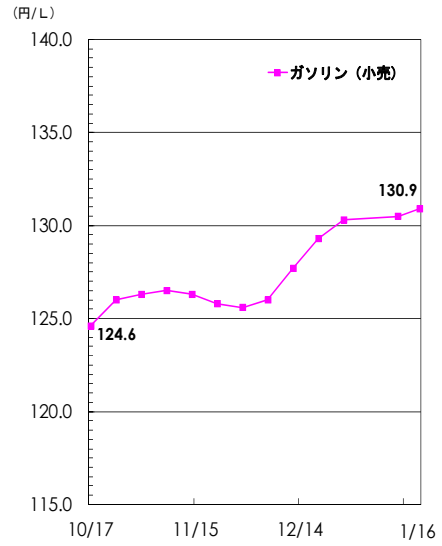
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/8 ~ 1/14	3,993 ▼ -39	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	94.7 ▼ -0.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	1/14	13,685 ▲ 9	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/16	53.42 ▲ 0.72	▲ 28.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/17	52.48 ▲ 0.52	▲ 24.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月中旬	45.94 ▼ -1.88	▲ 2.42
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	32,717 ▼ -675	▼ -865
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.23 ▼ -2.21	▲ 9.44
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/16	115.33 ▲ 1.63	▲ 2.72



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/8 ~ 1/14	1,046 ▲ 42	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	825 ▲ 21	▼ -	
	輸出	"	90 ▲ 78	▲ -	
	在庫	1/14	1,868 ▲ 131	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/10 ~ 1/16	50.0 ▼ -0.3	▲ 16.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/10 ~ 1/16	50.1 ▼ -1.3	▲ 18.2
		(TOCOM/中部)	1/16	50.1 ▼ -1.2	▲ 19.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/16	130.9 ▲ 0.4	▲ 13.7	

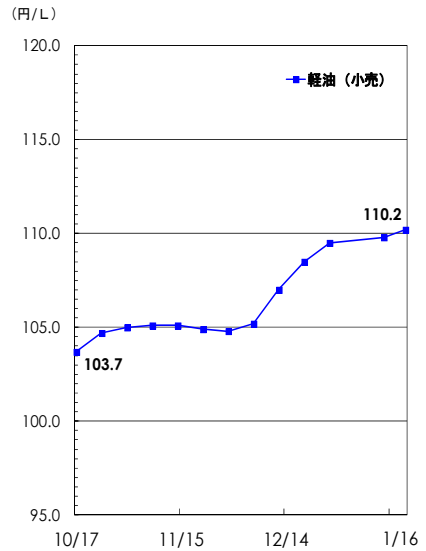
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

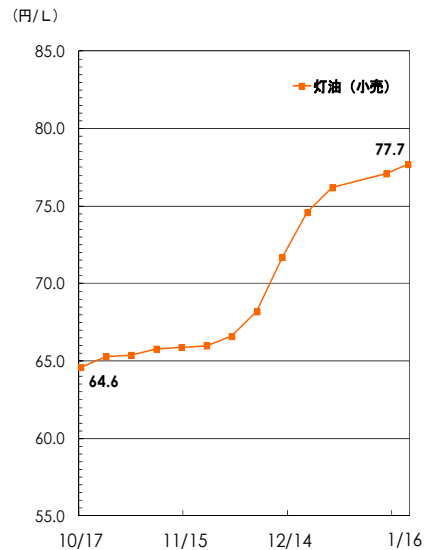
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/8 ~ 1/14	781 ▲ 52	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	532 ▲ 270	▼ -	
	輸出	"	226 ▲ 89	▲ -	
	在庫	1/14	1,872 ▲ 24	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/10 ~ 1/16	50.9 ➡ 0.0	▲ 11.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/10 ~ 1/16	46.0 ➡ 0.0	▲ 13.5
		(TOCOM/中部)	1/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/16	110.2 ▲ 0.4	▲ 8.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/8 ~ 1/14	526 ▼ -19	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	581 ▲ 221	▼ -	
	輸出	"	15 ▼ -19	▼ -	
	在庫	1/14	2,158 ▼ -70	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/10 ~ 1/16	55.0 ▼ -0.5	▲ 26.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/10 ~ 1/16	51.6 ▼ -1.1	▲ 23.8
		(TOCOM/中部)	1/16	52.5 ▼ -0.2	▲ 24.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/16	77.7 ▲ 0.6	▲ 13.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

1月18日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)が、堅調な原油相場を受けて石油掘削リグの稼働数が増加しており、米国のシェールオイル生産が、昨年10月以来久々に前年比プラスに転じると報じたこと、ドル高進行による原油の割高感等により、大幅に反落した。2月限の終値は前日比1.40安の51.08ドル、3月限の終値は前日比1.37ドル安の51.89ドルだった。

EIAによると、1月16日時点のガソリンの小売価格は前週比3.0セント値下がりの1ガロン2.358ドル(71.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.2セント値下がりの2.585ドル

(78.7円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に7週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、1月8日～14日に休止したトッパー能力は5.7万バレル/日と前週に比べて5.7万バレル増加。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は399.3万klと、前週に比べ3.9万kl減少。前年に対しては6.8万klの増加。トッパー稼働率は94.7%と前週に対して0.9ポイントの減少、前年に対しては4.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.2%増、ジェット/9.0%増、灯油/3.4%減、軽油/7.1%増、A重油/18.0%増、C重油/13.7%増。今週のC重油の輸入は8.9万kl(前週比4.7万kl増)。軽油の輸出は22.6万kl(前週比8.9万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェットのみが減少し、その他の油種で増加した。前年比ではすべての油種で減少した。年末年始をはさみ、小売価格は6週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は82.5万 kl(対前週2.6%増)と2週振りに前週比で増加、2週連続で前年比で減少となり、2週連続で100万klを下回った。

ジェット5.3万 kl(対前週35.0%減)、灯油58.1万 kl(対前週61.3%増)、軽油53.2万 kl(対前週102.8%増)、A重油26.8万 kl(対前週63.4%増)、C重油28.5万 kl(対前週

37.2%増)。

(単位：千KL)

	今週 (1/8 ~ 1/14)	前週 (1/1 ~ 1/7)	前週比	
ガソリン	825	804	▲ 21	(3%)
ジェット燃料	53	82	▼ -29	(-35%)
灯油	581	360	▲ 221	(61%)
軽油	532	262	▲ 270	(103%)
A重油	268	164	▲ 104	(63%)
C重油	285	208	▲ 77	(37%)
合計	2,544	1,880	▲ 664	(35%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月14日時点の在庫は灯油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリンのみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは186.8万kl、前週差13.1万kl増。前年に対しては4.1万kl多い。

灯油は215.8万kl、前週差7.0万kl減。前年に対しては34.3万kl少ない。

軽油は187.2万kl、前週差2.4万kl増。前年に対しては10.0万kl少ない。

A重油は79.9万kl、前週差1.4万kl減。前年に対しては5.0万kl少ない。

C重油は204.7万kl、前週差6.3万kl増。前年に対しては24.7万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (1/14)	前週 (1/7)	前週比	
ガソリン	1,868	1,737	▲ 131	(8%)
ジェット燃料	1,005	929	▲ 76	(8%)
灯油	2,158	2,228	▼ -70	(-3%)
軽油	1,872	1,848	▲ 24	(1%)
A重油	799	813	▼ -14	(-2%)
C重油	2,047	1,984	▲ 63	(3%)
合計	9,749	9,539	▲ 210	(2.2%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月10日から1月16日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円高で、原油コストは9週振りに値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン103~104円台、軽油50~51円台、灯油54~55円台で小幅に値下がりした。海上スポット価格は、ガソリン102~103円台、軽油49~51円台、灯油52~53円台、先物価格はガソリン103~104円台、軽油46円台、灯油50~52円台で、横ばいからやや値下がりである。元売の卸価格は据え置きから1.0円の値下がりだった。

東燃ゼネラルは1月19日、21日以降の外販スポット価格は、全油種を据え置き旨通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値下がりしたこと、製品スポット市況も軟調に転じた。週間のガソリン販売量は先週に引き続き80万kl台だった。

1月第4週(1月19日~1月25日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(1月10日~1月16日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.3円、灯油は0.5円の値下がり、軽油は横ばいだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.2円、灯油は1.7円、軽油は0.6円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが1.3円、灯油が1.1円の値下がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値下がり、為替は円高で、原油コストは値下がりとなり、製品スポット価格もやや軟調に転じた。

1月第4週の大手元売の卸価格は、据え置きから1.0円の値下がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (1/10 ~ 1/16)	前週 (1/5 ~ 1/6)	前週比
スポット価格	レギュラー	50.0	50.3	▼ -0.3
	灯油	55.0	55.5	▼ -0.5
	軽油	50.9	50.9	➡ 0.0

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値][平均]		今週 (1/10 ~ 1/16)	前週 (1/5 ~ 1/6)	前週比
先物価格	レギュラー	50.1	51.4	▼ -1.3
	灯油	51.6	52.7	▼ -1.1
	軽油	46.0	46.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/10~1/16実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -0.3	▼ -1.3	▼ -0.8	
灯油	▼ -0.5	▼ -1.1	▼ -0.8	
軽油	➡ 0.0	➡ 0.0	➡ 0.0	
A重油	➡ 0.0			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

1月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円値上がりの130.9円、軽油が前週比0.4円値上がりの110.2円、灯油は前週比0.6円値上がりの77.7円だった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油は13週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは34都道府県、横ばいは4県、値下がり9県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の126.8円(前週比1.0円高)、次が岡山県の126.9円(同0.3円安)だった。最高値は長崎県の138.9円(同0.2円安)だった。都道府県別で、最も値上がり

したのは前週比1.6円高の和歌山県(132.4円)、値下がり県は1.2円安の徳島県(128.2円)、横ばいが高知県(132.6円)、山形県(131.3円)、山梨県(130.4円)と岩手県(128.9円)だった。

原油コストは値上がりし、6週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は据え置きから1.0円の値下げに分かれた。原油価格は値下がり、為替レートも円高で、原油コストは値下がりしたが、大半の元売会社が卸価格を据え置いたことから、次週(1月23日)のガソリン・灯油の小売価格は横ばいが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			直近高値	
	今週 (1/16)	前週 (1/10)	前週比			
小売価格	レギュラー	130.9	130.5	▲ 0.4	08/8/4	185.1
	灯油	77.7	77.1	▲ 0.6	08/8/11	132.1
	軽油	110.2	109.8	▲ 0.4	08/8/4	167.4

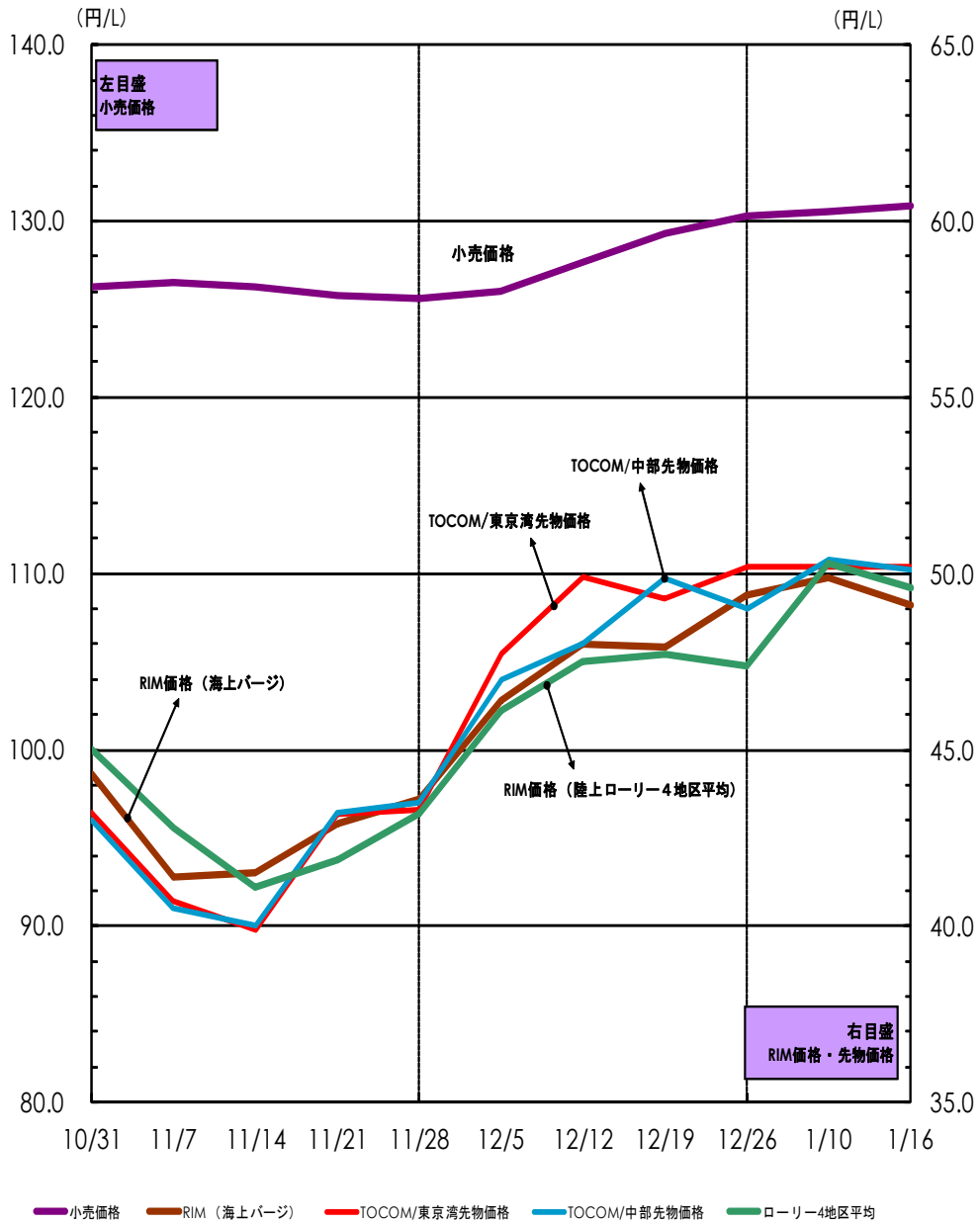
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/10/31 ~ 2017/1/16)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第41号)の公表は、1/27(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。